

1. 現状のアイデアに関する寸評

現時点で出されているアイデアは下記の通りです。

□間伐材を利用したベンチを設置

- ・埼玉県から安価な間伐材ベンチを購入し、必要に応じて検討会で手を加える。
- ・埼玉県から購入するベンチは、既製品のミニベンチではなく、丸太の間伐材をもらい、半分に切って大きなベンチを作っては。

□既存のテーブルセットを手に入れて使用した方が良い。

これらの発想の根底には①安価な費用で作る。②既存のベンチを利用するの2つがあります。アイデアには①屋外の公共ベンチとしての持つべき機能（メンテナンスフリー、ユニバーサルデザイン、ランドマークなど）に配慮することが必要と考えます。そして、何より利用者である一般市民のベンチに対する愛着心を持たせる工夫が必要と考えます。

2. 再整備エリア設置に適したベンチの素材

まずベンチの素材ですが現状のアイデアは埼玉県産の間伐材ありきですが、市民農園の既存設備を見てもお分かりのように例えば木材で作られた東屋は廃墟同然の様相であり今後定期的なメンテナンスが必要となっております。すなわち野外公共ベンチとしての素材は長期的なメンテナンスフリーを考えると木材や鋼材などは不向きと言えます。素材としてはメンテナンスフリーと製作の容易性を考えるとコンクリート製品が良いのではないのでしょうか。コンクリート製品はある程度自由なデザインを作ることが出来、かつ耐久性や維持管理がしやすい特長があります。

3. 再整備は一般市民に市民農園をアピールする最大のチャンス

再整備は一般市民に市民農園をアピールする最大のチャンスとしてとらえましょう。効果的にアピールするには①目的意識②参加意識③達成感の3つに配慮することが必要です。それにはまず①多くの市民に市民農園の再整備の必要性を知ってもらう。②再整備に当たっては一般市民にも再整備のプロセスに参加できる仕掛けを作る③再整備が完成した段階で一般市民に達成感を味あわせる。ことが必要です。

4. 市民参加をさせる工夫

今回の再整備に当たって市民参加をさせる工夫のアイデアは今後ベンチ以外でも検討するとして、ベンチの製作に際して市民参加をさせる効果は大きいと考えます。単に行政が準備したベンチでは一般市民のベンチに対する愛着心を持たせることは困難です。愛着心を持たせる工夫として例えば①ベンチのデザインを公募する②ベンチの製作に参加してもらうなどが考えられます。②の一般市民を参加させるには様々な製作工程での参加が可能と考えられますが例えば吉川市建設業協会や埼玉県コンクリート製品共同組合などの協力を仰いでは如何でしょうか。



図 コンクリート製のベンチデザインの例